

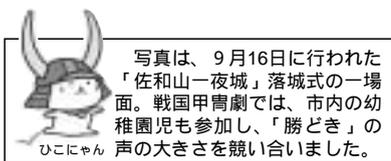
第99号

ひこね市議会だより



彦根市一般会計補正予算 3億8,460万円 可決

彦根市城山観覧料徴収条例・美しいひこね創造条例の一部改正



写真は、9月16日に行われた「佐和山一夜城」落城式の一場面。戦国甲冑劇では、市内の幼稚園児も参加し、「勝どき」の声の大きさを競い合いました。



Re-Discovery & New-Creation
国宝・彦根城築城400年祭
開催：2007年3月21日(祝)～11月22日(日)

9月定例会の結果……………2～3

常任委員会の審査状況……………4

代表質問……………5～8

個人質問……………9～13

彦根城築城400年祭特別委員会中間報告…13

議会改革特別委員会を設置しました…14

9月定例会のあらまし

9月定例会は、9月3日から21日までの19日間の会期で開催し、提出された議案審議のほか、各会派の代表者および17人の議員からの質疑、一般質問を行いました。

今期定例会に提出された市長提出議案は26件で、25件については、いずれも原案のとおり可決・認定・同意・適当と認めました。閉会日に提出された平成18年度彦根市各会計歳入歳出決算につき認定を求めることについては、決算特別委員会を設置し、閉会中の継続審査とすることとしました。

請願3件については、いずれも不採択としました。なお、定例会閉会日に、「議会改革特別委員会の設置について」を議員提出議案として提案し、全会一致で可決、11人の議員による委員会を設置しました。本委員会の詳細については14ページをご覧ください。

予算関係 = いずれも可決

件名	概要
平成19年度(2007年度)彦根市一般会計補正予算(第2号)	補正予算額: 3億8,460万円 彦根駅東土地区画整理事業、介護保険基盤整備事業、障害者自立支援対策臨時特例交付金事業、国宝・彦根城築城400年祭開催事業等の増額補正およびリハビリ広域支援センターにかかる経費の減額補正 滋賀県信用保証協会小規模企業者小口簡易資金保証債務損失補償の債務負担行為の補正および地方債の補正
平成19年度(2007年度)彦根市介護保険事業特別会計補正予算(第1号)	補正予算額: 5,997万円 平成18年度介護給付費負担金等の確定に伴い、超過交付分を返還するほか、基金積立に伴う補正
平成19年度(2007年度)彦根市立病院事業会計補正予算(第1号)	補正予算額: 16万5千円 リハビリ広域支援センターにかかる経費の補正
平成19年度(2007年度)彦根市水道事業会計補正予算(第1号)	補正予算額: 1億8,276万6千円 建築基準法の改正に伴う大敷浄水場水質試験室改築工事にかかる経費の補正

条例関係 = いずれも可決

件名	概要
政治倫理の確立のための彦根市長の資産等の公開に関する条例の一部を改正する条例案	郵政民営化に伴う郵便貯金法の廃止や、証券取引法の法律名が変更されたことに伴い、条文の整理を行うもの
彦根市情報公開条例の一部を改正する条例案	郵政民営化に伴い、日本郵政公社法が廃止されることから、条文の整理を行うもの
彦根市個人情報保護条例の一部を改正する条例案	郵政民営化に伴う日本郵政公社法の廃止や統計法の全部改正に伴い、条文の整理を行うもの
彦根市職員退隠料、遺族扶助料、退職給与金、死亡給与金支給条例臨時特例条例の一部を改正する条例の一部を改正する条例案	恩給法等の一部改正に伴い、所要の改正を行うもの
彦根市職員の退職手当に関する条例の一部を改正する条例案	雇用保険法等の一部改正に伴い、所要の改正を行うもの
彦根市市税条例の一部を改正する条例案	郵政民営化に伴い、日本郵政公社法が廃止されることから、条文の整理を行うもの
美しいひこね創造条例の一部を改正する条例案	参加登録者の対象年齢を2歳引き下げるなど、対象者の拡大を図るもの、およびボランティア活動その他の非営利活動を行う団体を、地域通貨の換金を受けられる団体の対象に加え、市民活動の更なる推進を図るもの
彦根市公民館の設置および管理に関する条例の一部を改正する条例案	公民館を効率的に利用できるようにするため、午前および午後の時間区分をそれぞれ二分するもの
彦根市訪問看護ステーション条例の一部を改正する条例案	10月1日から訪問看護事業を24時間対応とすることから、現行の利用料を老人保健法等3つの法律に基づく3種類の利用料金に改正するものなど
彦根市都市計画法に基づく開発許可等の基準に関する条例の一部を改正する条例案	法令の施行に伴い、都市計画法等が一部改正されることから、関係する条文の整理を行うもの
彦根市消防団条例の一部を改正する条例案	消防団の円滑な事業運営の一助とするため、団員の報酬の支給を年度末の年1回から9月と3月の2回に改めるものなど
彦根市城山観覧料徴収条例の一部を改正する条例案	国宝・彦根城築城400年祭後も、西の丸三重櫓や天秤櫓等の重要文化財を常時公開するとともに、建造物等の保存整備を一層推進するため、観覧料の改正を行うもの 個人 500円 600円 団体 30人以上 450円 540円 100人以上 400円 480円 300人以上 350円 420円 (小中学生の観覧料は据え置き)

9月定例会の結果

決算関係 = 認定、継続審査

件名	
平成18年度(2006年度)彦根市立病院事業会計の決算につき認定を求めることについて	= 認定
平成18年度(2006年度)彦根市水道事業会計の決算につき認定を求めることについて	= 認定
平成18年度(2006年度)彦根市各会計歳入歳出決算につき認定を求めることについて	= 継続審査

人事案件 = 同意・適当と認める

件名	概要
彦根市固定資産評価審査委員会委員の選任につき同意を求めることについて = 同意	桑原留男氏(芹橋二丁目) 瀧川皓一郎氏(野良田町) 岡野睦氏(古沢町)
人権擁護委員の候補者の推薦につき意見を求めることについて = 適当と認める	水谷壽男氏(芹川町)
彦根市教育委員会委員の任命につき同意を求めることについて = 同意	小田柿幸男氏(日夏町)

その他 = いずれも可決

件名	概要
建物収去土地明渡請求調停申立事件に係る調停条項案を受諾することについて	彦根市所有地を占有している建物の所有者に対し、市有地を明け渡すよう申し立てていた民事調停において、裁判所から提示された調停条項案を受諾するもの
財産の取得につき議決を求めることについて	高規格救急自動車を取得するもの 購入費:25,749,620円 配置場所:彦根市消防署北分署

議員提出議案

会議案 = 可決

件名
議会改革特別委員会の設置について

請願 = いずれも不採択

件名
品目横断的経営安定対策の見直しと、多様な担い手の育成を求める請願
日豪をはじめとするEPA路線を転換し、自給率の向上と食糧主権にもとづく農政を求める請願
アメリカ産牛肉の輸入条件の緩和に反対し、全頭検査への予算措置の継続を求める請願

報告

件名
損害賠償の額の決定について(2件)
平成18年度(2006年度)彦根市土地開発公社の決算状況について
平成18年度(2006年度)財団法人彦根市事業公社の決算状況について
第19期彦根総合地方卸売市場株式会社の決算状況について
平成18年度(2006年度)財団法人彦根市文化体育振興事業団の決算状況について
平成18年度(2006年度)主要な施策の成果、基金運用状況および事務の概要について

25日(木)、26日(金)に開
決算特別委員会は、10月
催予定です。

委員長
副委員長

委員
小林 武
成 祐二
野村 郁雄
西川 正義
北村 正義
徳永 ひで子
小川 喜三郎
細江 正人
安藤 正博
佐野 正博

平成18年度彦根市一般会計、各特別会計の決算審査のため、決算特別委員会を設置しました。

決算特別委員会を設置しました

常任委員会の審査状況

9月定例会では、13日に福祉病院、14日に産業建設、18日に市民文教、19日に総務の各常任委員会を開催し、平成19年度の各会計補正予算や平成18年度の事業会計決算、条例の一部改正の議案等の審査を行いました。その主な概要をお知らせします。

一般会計、特別会計事業会計の各補正予算3件、平成18年度病院事業会計の決算認定のほか条例の一部改正1件の計5議案の審査を行いました。

一般会計補正予算の審査では、障害福祉サービス給付事業に関する事業者への補助や、新たに設置されるグループホームへの補助について、リハビリ広域支援センター経費にかかる委託料の減額や負担金の増額についての質疑がありました。

介護保険事業特別会計では、基金積立金や今後の保険料に

福祉病院

ついて質疑がありました。

病院事業会計決算の審査では、旧病院にかかる固定資産除却費について、外来患者の減少にもかかわらず外来収益が増加していることの原因や未収金回収の成果、不納欠損金の状況について、補償費の内容や他会計からの借入金について、診療科別の入院患者数の動向について、院内保育所の利用状況等就労環境の改善に関する質疑がありました。

審査終了後、採決を行い、いずれも可決、認定すべきものと決しました。

一般会計補正予算1件、水道事業会計補正予算1件、平成18年度水道事業会計の決算認定のほか条例の一部改正2件の計5議案、および請願3件の審査を行いました。

一般会計補正予算の審査では、災害復旧費に関して、7月中旬の集中豪雨による林道滝谷武奈線の被害状況のほか、彦根駅東土地区画整理事業に関して、工事請負費や補償費の内容等について質疑がありました。

城山観覧料徴収条例の一部改正案の審査では、城内観覧

産業建設

料の一般料金の改正について、今まで公開していなかったところを見ていただくため、やむを得ないとの発言や、保存整備の負担を市民や観光客に求めるのは反対との発言がありました。

水道事業会計決算の審査では、有収率の向上理由等について質疑がありました。

採決では、5議案とも可決、認定すべきものと決しました。請願の審査では、3件とも賛否両論の発言がありました。が、いずれも不採択すべきものと決しました。

一般会計補正予算1件、条例の一部改正8件および議決案件2件の計11議案の審査を行いました。

一般会計補正予算の審査では、消火協力者への災害補償費等の算出方法等について質疑がありました。

美しいひこね創造条例の一部改正案の審査では、参加登録対象者の拡大の目的や制度の趣旨について、登録者拡大に伴う事業のPR方法について、また、登録者の増加に伴う地域通貨「彦」の交付額増を見据え、将来的に交付限度

総務

額を設けるなどの考えはあるのか等の質疑がありました。

建物収去土地明渡請求調停申立事件に係る調停条項案を受諾することについての審査では、市が支払う解決金額の根拠についての質疑がありました。

高規格救急自動車の更新に伴う議決案件の審査では、新車購入に伴う旧自動車の取り扱いや故障した際の整備・処置状況および管理について、救急車の更新方針等への質疑がありました。

採決では、全議案とも可決すべきものと決しました。

一般会計補正予算1件、条例の一部改正1件の計2議案の審査を行いました。

一般会計補正予算の審査では、特別支援教育支援員配置事業に関して、支援員の配置校について質疑があり、基本的には、城南小学校および南中学校に1名ずつの配置予定であるとの答弁がありました。

また、2名では不足なのではとの質疑に対しては、該当校では既に、チューターなどのボランティアに支援いただいている。今後、支援員が入って、子どもたちの教育ニーズ

市民文教

にどのように対応できるのか研究していく必要があるとの答弁がありました。

条例の一部改正の審査では、公民館の利用区分を二区分することで、利用機会や使用料の増加につながるのかとの質疑に対しては、区分することにより有効に活用し、より多くの方に利用いただきたい、また、使用料金については、社会教育活動等での利用は無料のため、若干の増加であるとの答弁がありました。

採決では、2議案とも可決すべきものと決しました。



新政ひこね

質問者 八木 嘉之

所属議員：8名

問 彦根市立病院は、新たな拠点での開設から5年目に入り湖東保健医療圏の核となる総合病院として一定の役割を果たしてきたところである。平成19年度事業としての、産婦人科医療確保対策、院内助産所開設等の諸事業の現状と展望について見解を求め、本市として、産科医療体制のあり方について明確なビジョンを打ち出し、市民が情報を共有できるように努めるべきだが見解は。

問 本年6月に成立した地方公共団体財政健全化に関する法律により、自治体は財政破綻を早い段階で食い止め、健全な財政運営を目指すため4つの指標を導入し、平成19年度決算から公表することとなった。本市が現在策定中である公債費負担適正化計画等を踏まえ、現状での見通しは。また、計画を公表すべきと考え、見解を求め、さらに、職員の意識改革も重要と考えるが見解は。



産婦人科医療体制の
今後の展望は



本市を取り巻く
厳しい財政見通しは



産科医療体制の環境改善を強める



依然として厳しい財政状況である

答 医師確保は、関連大学の人事担当部局を度々訪問し、積極的に働きかけているが、大病院の医局自体も人的に非常に厳しい状況である。院内助産所開設は、業務内容の整理やシステム、設備の改修などを行い非常勤の産科医でも確保できれば開設していく。今後の産科医療体制は、病院や診療所だけの完結を目指す分娩体制はもはや限界に達しており、病診連携を強め取り組んでいく。

答 実質公債費比率が基準値を大きく超えたため、公債費負担適正化計画を策定し、市債残高の抑制に努めているが、依然として厳しい状況となる見込みであり、早期健全化団体に該当するものと考えている。また、公債費負担適正化計画は分かりやすい形で市民の皆様所周知していく。さらに、本市職員が自身の置かれてある厳しい立場を認識し、コストや効率を考え仕事をすることを重要と考える。

ほかにもこんなことを質問しました

- 彦根市広報紙配布の手段について
- 防災施策の充実について
- 彦根城築城400年祭後の観光政策について
- 市営住宅の現状と将来構想について
- 幼保一元化の取り組みについて
- 彦根城の世界遺産登録について
- 「全国学力テスト」の情報開示について



本市の厳しい財政見通しは



彦根市立病院 現状と今後は

彦 政 会

質問者 佐野 正博

所属議員：8名

問 専門的でハイリスクを伴う病状の場合、病院間では転送診療や、初期の段階からでも他病院を紹介すると聞く。彦根市立病院から他病院へ、また、他病院から市立病院への転送診療の現状を聞きたい。湖東地域において、「専門診療を行う医療機関」と位置づけられている市立病院の医療機器の有効活用と、市民から信頼される「医療体制の充実」と「病院経営」に対する考えを尋ねる。

問 災害時には想定外のことが起こる。災害対策本部となる市庁舎は耐震工事ができていないが、その理由は何か。市庁舎が倒壊した場合、災害対策本部は消防本部に設置されるが、円滑な稼働は可能か。今後どのように市庁舎の耐震化を進めるつもりか。停電時の情報伝達手段、孤立した被災地の住民への対応、また、携帯電話の電波の届かない地域との連絡方法はどのようなのか。



彦根市立病院 現状と今後



“想定外”ではすまされない



急性期中核病院として今後も



市民の安全確保には万全を期す

答 転送の現状について、平成18年度実績では、彦根市立病院から他の病院等への移送は72件、他の病院から本院への転送は142件あった。本院は新病院開設に伴い多くの最新鋭の医療機器を整備しており、産婦人科以外は人的に大きな問題はなく有効に活用している。また、「医療体制の充実」と「経営基盤の安定」は表裏一体のものと認識し、引き続き経営健全化に向け努力を重ねていきたい。

答 耐震化工事は、住民の拠点避難場所を最優先しており、今後は市の財政事情を勘案しつつ耐震化実施計画を作りたい。消防本部にも市庁舎と同等の資機材が配備されており、円滑な稼働は可能である。停電時の情報伝達手段は今後検討する。孤立した地域の人々の救出や生活支援には防災ヘリや自衛隊に出動を要請する。孤立した電波の届かない地域では衛星携帯電話の設置を計画している。

ほかにもこんなことを質問しました

質疑：議案第70号彦根市城山観覧料徴収条例の一部を改正する条例案について

行財政改革の成果と平成19年度決算見込み、および平成20年度予算編成について

広報ひこね等文書配布について

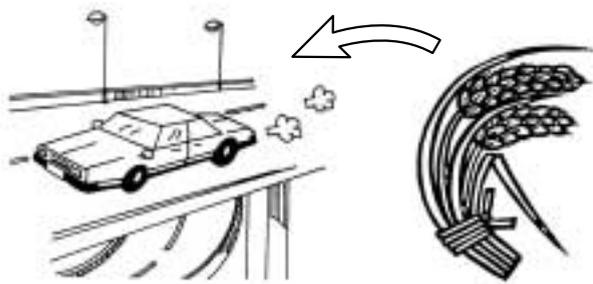
遅れている都市基盤整備、特に道路河川改良事業について

読書環境の整備について

次世代育成対策について



防災訓練のようす



市 政 会

質問者 北村 収

所属議員：5名

問 農林水産省が稲わらを原料とするバイオエタノールの生産を支援する方針を決定したとの報道があった。バイオエタノールの原料にサトウキビやトウモロコシ等が使われることで世界的な食料供給の悪化につながっている。今後実用化に向けた実証実験が実施されると聞くが、農業離れ、耕作放棄地、荒れ地の拡大防止の観点から、彦根市として検討に値すると考えるが見解を伺う。

Q 稲わらを活用した新資源の検討は

A 農業離れ対策の一考察になるのでは

答 農作物のエタノール化が進む中で、食料供給に悪影響が出てきている。食料以外の素材の有効活用として木質系や草木系のセルロース等を原料にした技術が研究され、すでに技術開発した企業がある。2008年度予算に、農林水産省が稲わらを原料に使う実証実験に着手する概算要求を行うとの発表がなされた。本市としても遊休農地対策や雑草対策等で国や産業界の動向を注視していく。

問 長年の懸案事項である彦根インターチェンジから外町交差点周辺の交通渋滞を解消するため、国道306号バイパス案が県により決定され、事業実施に向けた周辺の調査がなされた。その後、住友大阪セメント跡地内を通るルートで、地権者である開発業者、滋賀国道事務所、中日本高速道路株式会社および公安委員会等と早期事業着手に向け協議がされているが、現在、どのような状況か。

Q 国道306号バイパスの整備促進は

A 各機関と協議合意し事業計画を提示

答 国道306号バイパスは、現在概略設計を終え、国道8号の古沢交差点と国道306号の原町交差点の改良について、公安委員会、滋賀国道事務所および中日本高速道路株式会社と協議中であり、協議が整い次第、地元で事業計画案を提示する。住友大阪セメント跡地のバイパス予定地については、事業着手まで彦根市に帰属させることで滋賀県と協議し、開発業者の同意を得て進めている。

ほかにもこんなことを質問しました

- 平成20年度予算編成構想について
- 彦根城の世界遺産登録の実現性について
- 花火大会の今後の開催について
- 非農用地の有効活用について
- 地域包括支援センターの役割について
- 地域密着型介護サービスについて
- 稲枝駅改築整備事業について
- 消費者保護対策について
- 彦根駅東土地区画整理事業の進捗状況について
- 児童虐待について
- 国宝・彦根城築城400年祭終盤に向けて



渋滞する外町交差点



日本共産党

質問者 成宮 祐二

所属議員：3名

問 平成18年度市立病院の決算が提出されたが、この一年も「誤診療」「診療ミス」とおぼしき事態が多かった。原因は医師不足と危惧するが、決算を通じて「なぜ市立病院に医師が確保できないのか」、「スタッフの労働条件は確保されているのか」の分析結果はどうか。また、「現病院の最大の課題は産科」出産の再開であり、小児科等他診療科の医師確保である」と考えるが見解を問う。

問 行き届いた教育推進のためには、現場で多数の困難がある。根本は国の政治にあるが、地方自治体として独自の手立ても必要である。30人以上下学級の実施、教職員の労働条件確保、「超過勤務」、「仕事の持ち帰り」、「諸休暇の確保」これらを保障するには、教員の増員が必要である。彦根市だけ「夏休み」が短縮されたが、教室には少なくとも扇風機が必要である。見解は。

Q 市立病院産科の早急な再開を

Q 教員の増員で行き届いた教育を

A 産婦人科医確保に引き続き努力する

A 「教員増」は今後も県に要望する

答 医師の確保ができない背景に全国的な医師不足の問題がある上、地域的な偏在等もあり努力はしているが、困難になっている。スタッフの労働条件は、医師に比べ他の職種では休暇はとれているが十分とは言えない。産婦人科の再開は、市長や病院長もあらゆる手立てを講じているが、現在のところ具体的な成果はない。引き続き医師確保に努めたい。小児科はこの4月に一人増員した。

答 学級編成基準は、県が定めることになっているが、今後も拡大を県に要望していく。教職員の労働条件では、午後8時以後に退勤する教員は中学校で約4割とらえている。「超過勤務」や「仕事の持ち帰り」が慢性化していることは重要な課題と受け止めている。「労働条件の確保」は計画的、効率的な業務の処理がなされるよう努めているがなかなか難しい。扇風機の設置は、教室の室温調査結果等により検討する。

ほかにもこんなことを質問しました

平成20年度予算編成方針の基本に関わって
福祉・くらしの施策は市民の願いの立場で実施を
広域ごみ処理場の建設に関わって
防災の課題、特に地震対策、集中豪雨と市民の安全対策について
国の農政推進でなく、家族経営を守る農政に
広報配布問題について



田中 滋康

問 入札の基本は、一般競争入札である。入札の公正・透明性を確保し、競争性を高めること、支出を減らす効果も生じ、良い入札方法と思うが、

答 地方自治法では、一般競争入札が、原則である。

問 実際は、指名競争入札。大津市で入札の方法を変えたら、落札率が5.7%（対前年比）低下した。これを18年の本市工

細江 正人

問 市は広報紙の配布を業者委託のポスティングに切り替える検討をされてきた。ご近所のつながりや安否を把握する意味からも、配布業務は地元



Q 広報紙の配布は自治会が最適では

A 調査し、できない町のみ業者委託へ

答 自治会が最適と考えるが、広報ひこね等宅配業務説明会での結果を受けて、市が示す一定条件のもとで自治会が希望される場合は、平成20年度以降も従来どおりその自治会にお願いする。希望されない自治会については業者委託に切り替える。

問 挟み込み文書や回覧は。

答 配布業務の負担軽減および情報提供の一元化を図るため、個別パンフレット等の発行を抑制し、回覧文書は廃止する。

Q 入札制度の改革に取り組むこと

A 見直しを含む一層の競争性の確保を

事額に当てはめると、約2億円の支出減になる。入札制度の改善を図るべき。

答 建設業者の発展のこともあるが、入札参加者の拡大を図るなど一層の競争性の確保に努め、今後更なる見直しも必要と考える。



有馬 裕次

問 災害応急対策での要援護者対策や支援の取組は。

答 行政だけで災害から市民を守るには限界がある。自治会を基盤に住民が自ら取り組み、危険箇所の点検や避難訓練等を地域で活発に行われるよう行政がお手伝いすることで、「自助」「共助」「公助」の連携を生み、災害に強い街づくりが可能と考える。自主防災組織設

馬場 和子



400年祭閉幕後の開国記念館の利用は

問 400年祭閉幕後の開国記念館の利用は。

答 彦根城の玄関口でもあり集客も見込めることから、代わるべき事業を庁内で検討し活用する。

問 開国記念館の仮設工レベーターは、閉幕後

Q ポスト400年祭 どう取り組む

A 市民参画は彦根を支える要素と認識

どうなるのか。

答 施設の有効活用のため必要であり、文化庁に継続設置の申請をしたい。

問 人気者ひこにゃんの今後の身の振り方を問う。

答 全国的な知名度も高く彦根城や彦根の広告塔としての立場を保ちたい。

問 市民活動の拠点整備に対する見解は。

答 400年祭を契機に高まった市民参画は、将来の彦根を支える重要な要素であると認識するが、財政面から対応は困難。

Q 危機管理をめぐる 課題・地域防災は

A 自分たちの地域と命は自分たちで!

置促進に努め理解を深めたい。

問 安全安心の通学路のため歩行者専用橋新設を。

答 通称「青橋」は再三にわたり歩行者専用橋の設置要望はあるが、費用面で困難。時間制限で通行規制を順守するよう警察に取締り強化を依頼中。



安全安心の通学路確保を



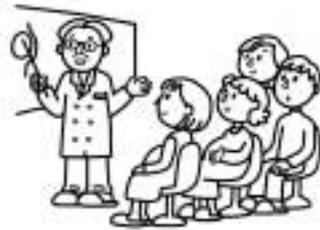
院内助産所開設の 可能性を問う

問 彦根市の産婦人科医療について市民の不安が募っているが現状を問う。市立病院産婦人科の医師の招聘の現状はどうか、院内助産所の開設の可能性はどうか、また民間の産科専門の診療所の進捗状況はどうか。

答 市立病院では産婦人科医師一人の状況では不測の事態に対応できず、リスクが高いことから非常勤医師でも確保ができ

辻 真理子

れば院内助産所を開設する予定である。また平成20年7月には、市内八坂町に民間の産科専門の診療所が開設を目指して努力されているところである。



A 非常勤医師確保ができれば開設予定



妊婦健康診査の 5回無料の拡大は

問 厚生労働省は、「健康で安全なお産をするためには、5回以上の健診が必要」としており、妊娠のごく初期から36週程



徳永ひで子

度までの間、最低5回分を無料化するよう自治体に通知した。彦根市においても20年度より5回の妊婦健康診査無料の拡大を実施しては。

答 妊婦健康診査については、7月に開催された県内13市における「都市保健事業担当課長会議」で協議をした結果、平成20年度から県下統一方式での実施に向けて、現在、滋賀県医師会等との調整を図っている。本市としても県下統一での実施に向け、検討していく。

A 実施に向け、検討していく



温暖化防止に向けての 取り組みは

問 今後、必ず大きく取り上げられる地球温暖化の問題、二酸化炭素削減に向け、国民的プロジェクトのチームマイナス6%のメンバー入りを果たすべきだがいかがか。

答 啓発的な側面も考え、参加について積極的に検討する。

問 これまでの効果、これからの対策は。

答 様々な取り組みの結果、市の事業からの二酸化

赤井 康彦



化炭素排出量は、平成11年度を基準として平成17年度には目標を上回る9.4%削減に成功。本年11月には、環境省の「燃料電池自動車啓発推進事業」の選定を受け、水素カーを使うた啓発を行う予定

A 今年度も新たな数値目標で取り組む



不易と流行の観点から 今後の教育は



矢吹 安子

問 教育長は常に「彦根っこ」の「根っこ」を強く、たくましく育てることが必要と、彦根市独自の

の事業を実施されている。不易と流行の観点から、これからの教育に期待することは。

答 不易は不変であるが、流行は時代とともに変化する。いたずらに流行を追うことなく、しっかりと地に足をつけながらも、将来を見据えた教育を推進し、過去の諸先輩から受け継いだ「彦根教育」を通して、心豊かでたくましく文武両道にたけた「彦根っこ」の育成を図ることが、彦根市民の信託に応えることである。

A 彦根教育を通じた彦根っこの育成を

問 地区公民館のバリアフリー化は地域住民の切なる願いである。地域の誰もが気軽に集える施設であり、0歳から高齢者・障害のある方達が問題なしに利用できる施設こそ不可欠である。私は今日までも強く求めてきたところである。ノーマライゼーションの理念、人権の視点の街づくりからも施設整備の具現に向けた本市の見解を尋ねる。

杉本 君江



人間として
自分らしく生きるために



ハートビル法こそ、人権の視点から



地区公民館のバリアフリー化を

答 バリアフリー化の対象となる施設を中心に順次整備を考へており、財源の確保に努めてまいりたい。この法は行政が率先してすべきことは認識している。実現できるように取り組んでいく。



小川喜二郎

問 学校や社会教育団体への野外活動における指導は。
答 学校教育分野では、野外活動実施における手



学校や社会教育団体での
安全教育は



安全確保を最優先に指導している

問 体験活動の重要性と安全管理は。
答 体験活動を通して豊かな人間性、社会性を身につけることができる。滋賀県教育委員会が作成する「野外活動安全マニュアル」を各団体に周知徹底し有効活用したい。

問 大型ごみ処理施設の計画がある中、ごみ有料化計画もある。有料化議論より減量・資源化が最重要課題である。資源化できるごみが多く焼却処分されている今、ごみ減量基本計画に、平成22年度に向け再生利用量を現在の15%から24%に増加させるとあるが、その根拠と計画内容を問う。
答 従来の資源回収を拡大し、減量化目標を達成

山田多津子



人権・福祉交流会館「WAつとねす春日」

夏川嘉一郎

問 人権問題は市の重要課題。各施策による成果は大きいが、市民の人権意識理解度に未だ課題あり、新対策が必要である。



ごみ有料化より
減量・資源化促進を



資源化促進と市民の意見を聞き方策

したい。可燃ごみの40%を占める生ごみの発生抑制には、生ごみ処理機の普及と新たに廃食油の資源化を促進する。ごみ有料化は、市民の意見を聞く機会も取り入れ審議会



人権施策の今後の
取り組みについて



様々な施策を体系的に実施していく

また、意識の中に権力、身分、貧富の違いで差別感を持つ気風があり、ここに問題がある。問題解決のためには、「人間平等」を掲げた強い理念運動の展開が必要と考へるが。
答 本市では、問題解決に向け取り組んできたが、更に工夫を加えて取り組む。また、全ての人を対象にした「人間平等」の理念は、本市が目指す人権尊重のまちづくりと考へを一にするもので、この理念に基づく様々な施策を体系的に実施する。



道の駅を彦根市に誘致せよ



道の駅を彦根市に

問 道の駅は車の運転の休息をとる目的に加え、地域の特産物、農産物の販売があいまって多くの利用がある。本市へ道の

山口 大助

答 駅の誘致を県・国へ働きかけていただきたい。
問 道の駅は道路利用者の利便施設であり、地域経済の活性化を求める経済施設でもある。本市においては、道の駅の設置について、以前より産業全体の振興、道路施策および周辺環境面の観点から協議したところ、運営面や広範囲での用地確保等いくつかの課題もあつた。しかし、地域経済の活性化や産業の振興に必要な施策であり、今一度検討を加えていきたい。

A 今後、検討を加えていく



大堀山歩道の 拡幅と安全対策は

問 落石の責任の所在は。道路管理者が明らかに落石の危険が認められるにもかかわらず、落石防止措置を講じていない時は、責任を問われる場合がある。しかし、落石を発見したならば、その前で停車し事故を回避する義務があることから、過失相殺される場合がある。
問 崖崩れの防止対策は。
答 道路管理者が警戒標識の設置や防護柵を設

松本 忠男



ける。
問 風致地区の安全対策は。
答 自然環境に配慮した構造物による対策で。
問 大堀山歩道の拡幅は。
答 風致地区に指定されているため規制を受けることとなり、歩道の拡幅は難しいのが現状である。

A 風致地区内の歩道の拡幅はできない



企業誘致策の評価と 今後の方向性は



問 市長公約の一つであり財源確保に有効な企業誘致施策について、現時点での評価と今後の方向性について見解を問う。

安藤 博

答 いくつかの企業から打診があつたが、近隣市町と比較して地価が高い問題等から実現に至っていない。一方、既存企業の莫大な投資は、企業誘致に匹敵すると捉えている。
 今後、更なる増築・増設計画の情報もあり、引き続き積極的な支援を行っていく。また、広大な面積を必要とする企業誘致から、あまり面積を必要としない企業等の要望に応えられる誘致に尽力していく。

A 既存企業の増設等に支援をしていく



三津・海瀬開発予定地の 早期対応策を

問 この地は圃場整備事業を除外し、福祉施設建設予定地として20年前から開発を望んでいるが、進行せず、現在では農地としても維持管理が困難な状態である。当局として有効な土地利用策は。
答 この地は農用地である。基盤整備等により有効の利用が必要である。
問 農振地とは言え、昔のままの土地であり、地元として今後どのような

渡辺 史郎



開発予定地の早期対応策を

答 方向性で進めるべきか。地域の経営体育成が肝要である。最近の報道で、農林水産省において「農地の所有と利用」の制度の見直しが検討されている。今後地域で農地を守る選択肢が広がるのでは。

A 農地を守る選択肢が広がるのでは

ほかにもこんなことを質問しました

住友大阪セメント跡地開発に伴い、住民への説明責任は民間産科診療所への補助金支給に対する市民からの疑問について	彦根市の周産期医療体制の構築について
来年4月からまたも国民に負担増を押しつける、後期高齢者医療制度の改善を求めて美しいひこね創造事業について	民間の産科診療所開設の進捗状況について
松原水泳場の運営と管理について	美しいひこね創造条例の一部を改正する条例案について
これからの教育に期待すること	来年度の行政改革・事業計画・財政改革について
教育環境の整備充実を	自立する彦根市へ向けて
障害福祉の充実を	中学校給食の計画
防災について	都市計画マスタープランに関わるまちづくりについて
小一プロブレムについて	本市における山林の現状は子どもたちに関する諸施策から
後期高齢者医療制度について	市の企業誘致
彦根市立病院について	温暖化対策
道路整備について	公共交通問題について
経営改革プログラムの推進	子育て支援について
彦根城周辺の様子について	障害者自立支援法の改善を市民の安全をより確実にするための方策
	全中学校の給食実施に向けて

小林 武

問 道路側溝、溝蓋の維持はどのように。
答 道路パトロールで日々点検し、修繕の必要な箇所は緊急補修を実施、管理の行き届かない所は各自治会の通報や要望により現地確認し、緊急性や構造物の状態により補修改良の必要性を判断し、適宜対応している。
問 市内の橋梁の安全点検や維持については。
答 市道橋は476橋あり、過去に台風や過積載による被害があった。10mを超える41橋を安全点検し、13橋を耐震工事施工、鋼製橋108橋についても総点検し高欄の補修、塗装、地覆のクラック補修を実施している。

市街道路側溝、溝蓋 橋梁等の安全点検



道路パトロール、市民通報より対応



橋梁の安全点検は

彦根城築城400年祭特別委員会 中間報告

7月5日に開催した委員会の調査内容の概要を報告します。主な内容は、まちなか博物館、400年祭の事業効果、寄附金および今後の事業PRに関するものです。
 まず、まちなか博物館について、今後の入場者増加策の取り組みについて発言がありました。これに対し、何十万人もの人に来ていただく企画ではなく、まず市民に彦根の魅力を知ってもらおうと開催されており、引き続きPRを重ね、1人でも多くの人に来ていただるようにしたいとの答弁がありました。
 また、400年祭は約5億円の事業であるが、どのような成果があると分析しているのかとの発言には、主催者団体が実施されている事業は、採算を重視しているのではなく、市民に喜んでいただくため、参加を促すようなものであり、市外からの観光客が増えること、市外からの観光客が増え、街なかを歩く人も増えてきた。JRも彦根を重要視されてきており、今後の大きな効果になると思われること、採算については、歳入のメインは入山料であり、今後、城

山整備の財源にも充てられるなど、効果は非常に大きいと考えている等の答弁がありました。
 寄附金に関しては、市および実行委員会へ多額の寄附をいただいているのにもかかわらず、実行委員会決算書には50万1千円としか記載されていない。双方を分かりやすく表記できないかとの発言に対しては、実行委員会の決算書には、実行委員会が扱っている不特定多数の人からの寄附や募金が記載されており、市が直接受けた1億4千万円に関しては、予算の仕組み上、実行委員会収支には計上できないが、今後、検討したいとの答弁がありました。
 また、今後の事業PRに関して、マスメディアをもっと利用するなど、大々的にPRしては、との発言に対しては、あと140日ほどある。観光客向けのホームページでのPRが遅れており、今後、しっかりとやっていきたい。事業等に関しても、予算的になければ、補正をしてもお金はつき込まなければならぬと思っっているとの答弁がありました。

議会改革特別委員会を設置しました

有効かつ効果的な議会改革の推進を目的に、具体的な改革項目についての調査研究を行うため、議会改革特別委員会を設置しました。

【調査項目】

議員定数と議会の制度、運用面に関すること
 政策立案に関すること
 開かれた議会に関すること
 その他議会改革に関すること

【提案説明】(概要)

現在の地方行財政を取り巻く重要な動きの一つに、昨年12月の地方分権改革推進法の成立を受けて発足した「地方分権改革推進委員会」において、「地方の裁量をも高める」ことを目的に、今後3年間で地方分権改革が推進されることとなりました。一方、北海道夕張市の財政破綻を受けて、国においていわゆる「財政健全化法」が新たに制定され、地方財政の早期健全化を目指すこととされたところで

も、今日まで議会改革検討委員会において、「議員定数の問題」、「予算委員会の設置」等々、活性化に向けた検討がなされてまいりましたが、実現には至っていない面もあります。

また、検討委員会の議論は、議会内部での議論であり、検討内容が広く市民に公開できていないのが現状であり、今後の議会の方向性として、市民の皆様に見える形で改革に取り組んでいかなければと強く感じているところです。

こつこつとした状況を踏まえ、市の最終意思決定機関である市議会の果す役割は、今後、今以上に重要となっていくとともに、市議会自体の改革が強く求められているのが現状であると考えます。

そこで、議会改革を有効かつ効果的に行うため、議員定数や議会制度のあり方の探求、政策立案の向上など、具体的な改革項目について調査、研究することを目的に、議会改革特別委員会の設置を提案させていただきました。

委員長
 副委員長

- 八木嘉之
- 田島茂洋
- 赤井康彦
- 野村郁雄
- 小林郁武
- 山口大助
- 杉本君江
- 成宮祐二
- 安藤祐二
- 細江正博
- 馬場和子



本会議の日程(予定)

開 会	12月3日(月)
個人質問	12月10日(月)
個人質問	12月11日(火)
個人質問	12月12日(水)
閉 会	12月20日(木)

委員会の日程(予定)

産業建設	12月13日(木)
市民文教	12月14日(金)
福祉病院	12月17日(月)
総 務	12月18日(火)
開始時刻は	いずれも午前9時30分からです。

編集後記

夜空の星影は冴え、山裾の小道やウォーキングの足元の草むらからは虫たちのにぎやかな声が聞こえてきます。「虫の音」を聞く玄宮園では、ライトアップに浮かぶ白壁の国宝彦根城、甕の上に懸かる上弦の月、順路を照らす足元の仄かなみちしるべ等が、鏡のような水面に映る様は幻想的で、船上で楽士たちの奏でる優雅な調べがあたりには響き、巫女の鈴の音のように園内にすだく鈴虫の声とけあう宵は、まるで「夜想曲(ノクターン)」を聞く夕べ、か、いにしへの幽玄の世界に浸るような甘美な恍惚の一時でした。

さて、9月定例会では、4会派からの代表質問と17人の個人質問が行われ、代表質問では概ね市の財政状況や来年度予算に関する問題、広報紙等の配布問題、防災に関する問題、市立病院の産婦人科をめぐる問題、そして11月25日に閉幕の築城400年祭後の問題について質しました。また、議員定数や議会制度のあり方などの具体的な項目について調査、研究することを目的とした「議会改革特別委員会」を設置する議員提案を可決し、議会改革に向け大きな一歩を踏み出しました。

ひこね市議会だよりは再生紙を利用しています。